

三浦半島北東部、横須賀市夏島の 更新統上総層群野島層より 産出した大型化石

蟹江康光*・倉持卓司**・柴田健一郎***

Megafossils of the Pleistocene Nojima Formation
from Natsushima, Yokosuka City, northeastern
part of the Miura Peninsula, central Japan

KANIE Yasumitsu*, KURAMOCHI Takashi**
and SHIBATA Kenichiro***

キーワード：三浦半島、横須賀市、野島層、更新統、上
総層群

Key words: Miura Peninsula, Yokosuka City, Nojima Formation, Pleistocene, Kazusa Group

はじめに

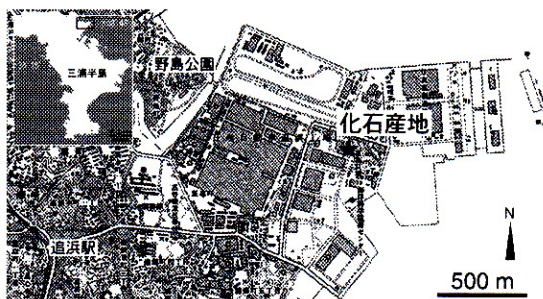
三浦半島北部に分布する上総層群野島層は、保存良好な貝化石を多産することが古くから知られ、産出する貝化石をもとに大塚(1930)、Shikama and Masujima(1969)などにより復元された古環境が報告されている。Shikama and Masujima(1969)は、野島層の多くの産地より産出した貝化石を基に古水深を復元し、東域から西域に向かって水深が深くなる古環境を復元している。しかしながら、横須賀市夏島町の夏島に露出する野島層は化石の産出量が少なく、これまで貝化石に基づいて古環境を論じた報告例はない。本報告では、横須賀市夏島の露頭より産出した貝化石を用い、これまで検討されたことのない夏島周辺の古環境を復元したので、その結果を報告する。

地質概略

野島層はおもに凝灰質の砂岩もしくはシルト岩からなり、下位の三浦層群よりも固結度が弱いことが特徴である。地層の傾斜は緩く、分布域東部では野島や夏島を形成している。異地性の貝化石の産出が多いことが知られ

ている。

検討対象とした夏島(第1図)は主にシルト岩からなり、数枚の凝灰岩を挟む。三梨・菊地(1982)は三浦半島に分布する上総層群の層序を火山灰鍵層に基づいて整理し、夏島を上総層群大船層として扱った。しかしながら、この地域の火山灰鍵層の対比は見直される必要があることから(藤岡ほか,2003)、ここでは江藤ほか(1998)、蟹江ほか(2008)に従い、夏島を構成している地層を野島層として扱う。



第1図 横須賀市夏島町夏島の位置。地形図は国土地理院発行2.5万分の一「横須賀」を使用。

産出化石と産状

本検討資料は、神奈川県横須賀市夏島町夏島の露頭より産出した貝化石を用いた(第1表)。

夏島町夏島の化石は、砂質シルト岩や凝灰岩中に散在的に産出した。貝化石の保存状態は概ね良好であり、ノジマエゾキリガイ *Turritella nipponica nojimaensis* Ida, 1952(第2図1a-1b)およびトウカイシラスナガイ *Limopsis tokaiensis tokaiensis* Yokoyama, 1910(第2図4a-4b)が優占種として産出した。また、カプトアヤボラ *Ranella galea* (Kuroda & Habe, 1961)、カマクラヒタチオビ *Fulgoraria kamakuraensis* Otuka, 1949(第2図2a-2b)、キララガイ *Acila insignis* (Gould, 1861)、*Entalinopsis* sp. および腕足類のクロスチョウチンガイ *Terebratulina crosseii* Davidson, 1882(第2図3)の産出が認められた。本露頭より産出したキララガイおよびトウカイシラスナガイは、いずれも離弁状態であったが、殻にほとんど破損がみられない。また、クロスチョウチンガイは合弁状態で産出した。

* あーすコンサル 〒249-0004 逗子市沼間2-9-4-405

** 〒240-0104 横須賀市芦名2-6-3-504

*** 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台95

原稿受付2008年11月19日 横須賀市博物館業績第622号

考 察

夏島町夏島の露頭から得られたトウカイシラスナガイ、キララガイは離弁状態で産出したものの、保存状態が良好であり、自生地ではないが、比較的近い場所から運ばれ堆積したものと推測される。ノジマエゾキリガイ、ダマシやトウカイシラスナガイの2種は、絶滅種であることから現生種との直接の対比はできないが、両種に近似するエゾキリガイ、ダマシ *Turritella fortilirata* (Sowerby, 1914) およびオオシラスナガイ *Limopsis belcheri* Adams & Reeve, 1850 は、いずれの種も寒流域の浅海～陸棚上部に生息する。夏島から産出した化石種がこれらの現生種の生息深度とほぼ類似した環境に生息していたと仮定すると、夏島を構成する野島層の堆積環境は、水深50～100m前後の砂泥底の環境であったと推測される。夏島と類似の種組成は、馬場(1990)により、金沢区六浦や室の木の野島層上部より報告されているが、馬場(1990)の報告に優占種として出現するヤスリツノガイ *Fissidentalium yokoyamai* (Makiyama, 1931) をあまり産出しな点で異なる。

野島層は、古くからヤスリツノガイやトウカイシラスナガイなどの大型化石を多産することが報告されている(大塚, 1930)。Shikama and Masujima (1969) は、野島層よ

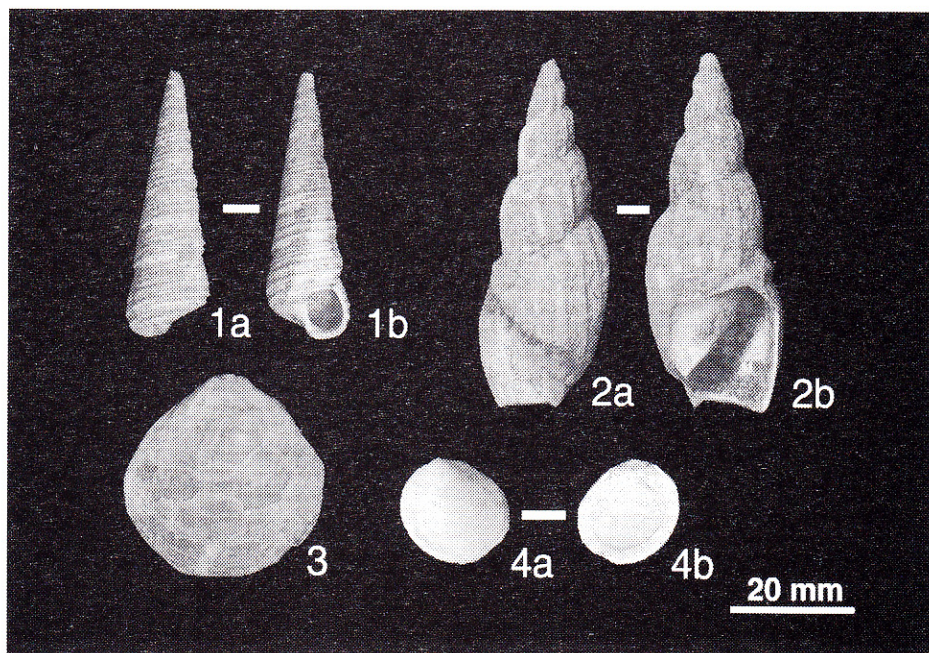
り産出する貝化石を群集ごとに区分し、金沢区六浦周辺にはオオシラスナガイ *Limopsis tajimae* Sowerby, 1914, キヌジサメザンシヨウモドキ *Phanerolepida pseudotransema* Ozaki, 1956, ヤスリツノガイを優占種とする下部浅海性群集、戸塚区公田周辺には漸深海性群集、鎌倉市今泉周辺には下部～上部浅海性群集が産出することを報告している。これらのことから、夏島から産出した化石より復元された水深は、大塚(1930)やShikama and Masujima (1969)により報告された金沢区六浦周辺や鎌倉市今泉に分布する野島層に比べ深度は浅く、野島層は東方ほどより浅い環境で堆積したと考えられる。

謝 辞

本報告にあたり、現地調査にご協力戴いた、三浦半島地盤研究会の諸氏、蟹江由紀氏、倉持敦子氏に感謝します。

引用文献

- 江藤哲人・矢崎清貴・ト部厚志・磯部一洋 1998. 横須賀地域の地質. 128 ページ. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所.
藤岡導明・亀尾浩司・小竹信宏 2003. テフラ鍵層に基づく横浜地域の大船層・小柴層と房総半島の黄和田層との対比. 地質学雑誌, 109 (3):166-178.



第2図 横須賀市夏島町夏島の野島層より産出した化石。1a-1b: ノジマエゾキリガイ、ダマシ *Turritella nipponica nojimaensis* Ida, 1952, 2a-2b: カマクラヒタチオビ *Fulgoraria kamakuraensis* Otake, 1949, 3: クロスチョウチンガイ *Terebratulina crossei* Davidson, 1882, 4a-4b: トウカイシラスナガイ *Limopsis tokaiensis tokaiensis* Yokoyama, 1910.

第1表 横須賀市夏島町夏島の野島層より産出した化石.

種名 Species	産出量	登録番号
軟体動物門 Mollusca		
ノジマエソキリガイダマシ <i>Turritella nipponica nojimaensis</i> Ida, 1952	m	YCM-GP 1200
カプトアヤボラ <i>Ranella galea</i> (Kuroda & Habe, 1961)	r	
マユツクリ <i>Siphonalia spadicea</i> (Reeve, 1846)	r	YCM-GP 1201
カマクラヒタチオビ <i>Fulgoraria kamakuraensis</i> Otsuka, 1949	r	YCM-GP 1202
ユキノツノガイ属の一種 <i>Entalinopsis</i> sp.	c	
ヤスリツノガイ <i>Fissidentalium yokoyamai</i> (Makiyama, 1931)	c	
キララガイ <i>Acila insignis</i> (Gould, 1861)	r	YCM-GP 1203
トウカイシラスナガイ <i>Limopsis tokaiensis tokaiensis</i> Yokoyama, 1910	m	YCM-GP 1204
腕足動物門 Brachiopoda		
クロスチョウチンガイ <i>Terebratulina crossei</i> Davidson, 1882	r	YCM-GP 1205

YCM-GP: 横須賀市博物館古生物資料 r: rare (1-4), c: common (5-10), m: much (11<)

蟹江康光・倉持卓司・柴田健一郎・蛭子貞二 2008. 三浦半島北東部, 横須賀市浦郷町の鮮新統池子層とその産出化石. 横須賀市博研報(自然), (55): 1-9.
 三梨 昂・菊地隆男 1982. 横浜地域の地質. 105 ページ. 地域地質研究報告(5万分の1 図幅), 地質調査所.
 馬場勝良 1990. 関東地方南部, 上総層群の貝化石群. 445 ページ. 慶應義塾幼稚舎.

大塚弥之助 1930. 三浦半島北部の層序と神奈川県南部の最新地質時代に於ける海岸線の変化に就いて. 地質学雑誌, 37: 343-386.

Shikama T. and Masujima A. 1969. Quantitative studies of molluscan assemblages in the Ikego-Nojima Formations. *Sci. Rept. Yokohama Natn. Univ., II*, (15): 61-94.